シリーズ菊池遺産⑯

問い合わせ先
企画振興課　☎0968(25)7250

西郷南州先生祖先発祥の地

法蔵（のりくら）さん

明治維新で活躍し、西南の役薩摩軍の将西郷隆盛の祖先発祥の地です。また、この一帯は菊池十八外城の一つ増永城跡で、初代の城主西郷太郎政隆は、菊池氏初代則隆の子で菊池一族でした。

その後裔26代西郷九兵衛昌隆の時、薩摩に移り住んだという記録があり、初代西郷太郎政隆から32代目が西郷隆盛です。なお西郷隆盛は、生涯のうち3年余り、鹿児島県大島郡龍郷町に居住。この時「菊池源吾」と名乗っていました。

境内の記念碑は、徳富蘇峰筆で熊本三洲会・旧加茂川村有志により、昭和27年10月に建立されました。

認定番号第ふるさとH 22 － 8号
推薦者　西郷区

高田区では、水神さんのことを法蔵さんと呼んでいます。ご神体は、50㎝ほどの純白の丸い川石で、丸五郎さんと呼ばれ親しまれています。正方形に囲まれた6㎡くらいの端垣の中に、千個以上の丸石がピラミッド型に積み上げられています。

法蔵さんには、毎年新しい丸石が献納されます。昔は、一戸から丸石一個を戸主が7月20日に献納していましたが、現在は小学生が行っています。

不思議なことに、献納された石が一向に増えないと言われており、それは、献納された丸石が、大雨前になると河川堤防を補強するからだと伝えられています。

認定番号第ふるさとH 22 － 9号
推薦者　高田区

人権同和教育シリーズ㉓

菊池北中学校2年　城　健斗（けんと）さん

人権学習を通して学んだこと

僕は、二年生になり、ハンセン病の学習、乳児ふれあい学習を通して、人権や命について深く考えることができました。このことは、自分自身のこれまでを振り返るよい機会でもありました。

初めに、ハンセン病の学習についてです。ハンセン病とは、感染病の一種で感染する確率が極めて低い病気です。医学的に解明が進んでいなかったとはいえ、国は「らい予防法」という法律を作り、ハンセン病患者を次々と療養所に収容していきました。ハンセン病にかかりたくてかかった人たちはいなかったはずなのに、偏見や差別を受け続けていきました。とても苦しかったと思います。病気の苦しみ、その上に偏見や差別―、今の僕には想像できません。また、これらのこと以上に辛かったのが、親や家族と一生離れて暮らさなければならなかったことです。何の説明も無く家族と引き離され、いくら待っても会えない寂しさや辛さ、そして怒り、どれだけの言葉を並べても言い尽くせないと思います。ハンセン病の患者さんには、ろくな治療も施されず、過酷な労働が待っていた、とも聞きました。

医学的に解明されていなかったとはいえ、あまりにも恐ろしい現実です。ハンセン病は過去の問題ではありません。身近なところで、そして最近、残念ながら熊本県でハンセン病回復者の方々の宿泊を拒否したという事件がありました。僕は、まだ偏見や差別は残っていることを痛感させられました。ハンセン病問題は過去のものではなく、医学が発達した現代の問題であることを改めて感じました。僕たちにできることは限られているかもしれませんが、今回の学習で正しいことを学びました。憶測や噂の恐ろしさを学びました。これからは、正しいことを自分たちが伝えていく番です。そして、そのことが偏見や差別のない明るい社会につながると考えます。

次は、乳児ふれあい学習です。最初に、赤ちゃんについて事前に学習をして、妊婦体験もしました。妊婦体験では意外に重くて驚きました。お母さんがこんなに重いお腹を毎日抱えながら、家事などをしていたなんて本当に驚きでした。つわりや出産など大変な思いをしながら赤ちゃんは産まれてきます。たった一つの命です。両親や家族に守られているかけがえのない命です。最近のニュースで、同じ世代の中学生の自殺や殺人行為を耳にしました。どれだけ人の命が重たいものなのか、どれだけ大切なものか、赤ちゃんを抱きながらその重みを感じました。大変な思いをして産んでくれた母、そしてこれまで育ててくれた両親や周りの人たち全員に感謝して、これからを生きていきたいと思います。

僕は、今回の学習で多くのことを学びました。この学習と体験を今後の生活に活かし、よりよい学校生活にしていきたいと思いました。

人権ポスター
菊池北中学校３年
冨田　楓（かえで）さん

わいふー番館だより

問い合わせ先
わいふー番館　☎0968（24）6630

菊池市高齢者大学書道クラブ作品展
菊池市高齢者大学書道クラブ
期間　9月11日（日）まで

故金子康典君を偲ぶ
第12回ウェルシティ熊本フォト倶楽部写真展
ウェルシティ熊本フォト倶楽部　　金子悦子
期間　9月13日（火）～10月10日（月）
菊池市に、自然をこよなく愛した金子康典というすばらしい風景写真家がいたことを、市民の皆さんの心に永くとどめていただきたく企画しました。

第２回まちかど資料館企画展
菊池市内の歌碑・文学碑の拓本展
期間：11月27日（日）まで
古くからある菊池市の貴重な石碑を拓本にして展示しています。書は体を表し精神を映すと聞きます。歴史ある碑文に込められた万感の想いを感じ取ってください。

菊池夢美術館情報

問い合わせ先　菊池夢美術館　☎0968（23）1155

天鴻グループ書展
期間：9月6日（火）～9月11日（日）
心に感じた思いを美しく書に表現します。

南草書道展
期間：9月13日（火）～9月25日（日）
「楽しみま書～古布を生かす～」
思い出の着物や帯を生かして書を表装します。

よろい展
期間：9月27日（火）～10月13日（木）
期間中の休館日はありません。
菊池夢美術館へぜひお越しください。

ふるさと縁の便り
菊池グリーンツーリズム

問い合わせ先
きくちふるさと水源交流館
☎0968(27)0102

◆放置竹林を活用した取組み

国内産タケノコの需要低下に伴った山間地域での「放置竹林」が問題となっています。放置された竹林が年間数mという速さで周りの田畑へと広がる「竹害」は深刻な問題です。市内の各地域で（太田区での「竹林祭」など）竹に関わる取組みが行われています。

きくちふるさと水源交流館では竹細工（竹とんぼや竹笛）や竹のソーメン流し、水源林研の協力で1万五千本の竹箸づくりなど「遊びを通した竹の取組み」で放置竹林をなくすための啓発活動を行っています。

昔は生活に身近な存在だった「竹」。地域の竹を見直してみませんか？

竹細工（竹箸・竹笛・竹とんぼなど）、孟宗竹のソーメン流し、竹を使ったステージ（音楽祭）、高校生のワークショップなどさまざまに竹を活用

韓国発見シリーズ㉑
こんにちは金（キム）です

鞠智城と韓国の二聖山（イソン）城について

菊池市役所
国際観光マネージャー
金　相廷さん

韓国の大田日報2009年11月24日は鞠智城について次のように記述している。「鞠智城が百済式山城という点は多くの経路を通して確認されている。熊本の歴史学者たちは韓国京畿道（キョンギドウ）河南（ハナム）市の二聖山城と鞠智城が非常に似ているという見解を明らかにしている…より著しい点は八角形の建物だ…二聖山城にも祭祀を執り行なった祭壇と推定される八角形の建物がある。…さらに明らかな遺物として熊本県立装飾古墳館は鞠智城内部の西方貯水池の1.5m地下より掘り出した青銅菩薩立像を公開した。日本の専門家たちはこの仏像が7世紀後半に製作された百済系仏像とみている」

二聖山城はソウルに近い京畿道河南市二聖山(海抜210m)にある。城壁の高さは約5m、総延長1、925mで内部面積は4、700坪だ。山城に対する歴史書の記録は全くない。

1986年に漢陽大博物館で発掘が始まり、2000年に城郭と城の内部全地域が史蹟第422号に指定された。南漢江(新羅領域)と北漢江(高句麗領域)が交わる水上交通の要地にあり東・西・南側は山に囲まれている。それで防御用山城としての立地がとても良い。

しかし単純に防御用とみるには、出土された遺物と遺構が常識的な水準を超える。最も多く発見される瓦屋根と八角・九角・十二角の建物の跡などは防御用陣地としてだけの解釈に疑問を抱かせる。

11回にわたった発掘調査では3、300点程の遺物が発掘された。また、城内貯水池底で出土された墨字跡が残った木切れを判読した結果、この城が少なくとも西暦603年以前に築城されたものと分かった。

さらに、八角・九角・十二角の造成の二聖山城が祭祀を執り行う王室の信仰地であったと判明し、その近隣の平地であるギョサン洞の土城一帯遺跡地帯は百済の都だったと推測される。

長い間、謎に包まれていた百済の初期都が分かる重要な鍵となった二聖山城が鞠智城と深い関連があるというのは興味深い。